

令和4年1月18日
都市局公園緑地・景観課

新国立競技場3つ分の屋上緑化！

～令和2年 全国屋上・壁面緑化施工実績調査の結果～

令和2年には、約19.9haの屋上緑化、約5.8haの壁面緑化が新たに創出されました。

屋上緑化や壁面緑化は、都市におけるヒートアイランド現象の緩和、美しく潤いのある都市空間の形成、都市の低炭素化等の観点から、全国的に取り組みが進められています。

国土交通省では、平成12年から全国の屋上・壁面緑化の施工実績調査を行っており、この度、令和2年の調査結果をまとめました。調査結果の詳細は国土交通省ホームページをご覧ください。

1. 調査結果(施工面積)

(1) 単年施工面積

令和2年中に、約19.9haの屋上緑化が施工されました。この面積は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開・閉会式が開催された新国立競技場の建築面積※の約3つ分に相当します。また、同年中に壁面緑化も約5.8haが施工されました。

※新国立競技場の建築面積：約69,600㎡



国土交通省HP

(2) 累計施工面積

調査を開始した平成12年から令和2年の21年間※の合計で、屋上緑化は約557ha、壁面緑化は約109haが創出されました。

※本調査は最大3年間遡った回答を依頼しているため、令和元年、令和2年データは暫定値であり、今後数値が変わる可能性があります。

2. 令和2年の特徴的な傾向

全体の施工面積における「事務用途」の占める割合が、屋上・壁面緑化ともに過去10年で最も高い値となりました。

詳しくは「トピック」をご覧ください。

(参考) 調査の概要

- ①調査方法：郵送によるアンケート調査
- ②調査対象企業：全国の造園建設会社や総合建設会社、屋上・壁面緑化関連資材メーカーなど 計538社
- ③回答回収状況：回収274社(回収率50.9%)
- ④調査対象期間：令和2年1月1日～令和2年12月31日



(提供：東急不動産株)

屋上緑化の例：東京ポトシティ竹芝

問い合わせ先：国土交通省都市局公園緑地・景観課 緑地環境室 渡部、有賀、吉野

TEL: 03-5253-8111 (内線32963,32965)

直通: 03-5253-8420

FAX: 03-5253-1593

トピック

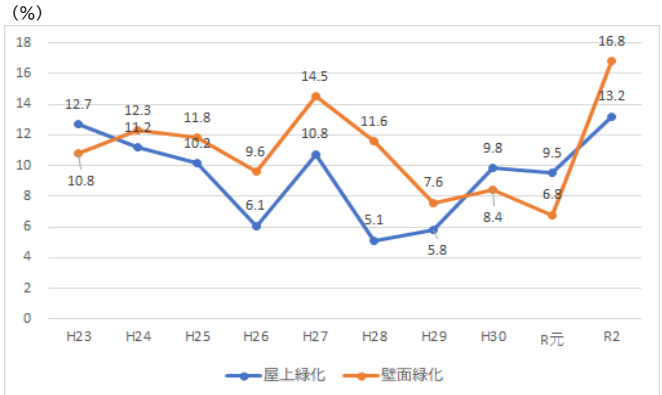
オフィスビル等において、積極的な屋上・壁面緑化を実現した事例を紹介します。

右のグラフは、屋上・壁面緑化の各年の施工面積のうち「事務用途」が占める割合について、直近10年間の推移を示したものです。令和2年は屋上・壁面緑化ともに、事務用途の占める面積割合が、この10年で最も高い値(屋上: 13.2%、壁面: 16.8%)となりました。

近年、「人は生まれながらにして自然や動植物との繋がりを求める特性がある」というバイオフィリア理論を踏まえ、オフィス空間等に植物を取り入れることで快適な職場環境や滞在空間を提供しようとする動きが注目されてきています。

ここでは、事務用途および事務所を含む複合的な用途の施設において、職場環境の向上を目指した事例や、人の集まる空間として積極的な緑化空間の創出を実現した事例を紹介します。

事務用途の施工面積割合 (H23~R2)



※R元、R2は暫定値

水と緑を感じながら働くことができる複合施設の事例

東京ポートシティ竹芝 (東京都港区)

臨海部の市街地再開発において創出された豊かな緑化空間

東京ポートシティ竹芝は、東京都港区竹芝地区に立地する、オフィスタワーとレジデンスタワーからなる複合施設です。東京都公文書館など公共施設の跡地の再開発として計画され、JR浜松町駅からゆりかもめ竹芝駅、竹芝ふ頭までを歩行者デッキでつないでいます。オフィスタワーでは、6階までの低層フロアの屋外に、豊富に緑化された階段状のテラス「スキップテラス」が設けられており、オフィスワーカーなどが集まる空間となっています。

多様な緑を取り入れた魅力あるワークスタイルの創出を目指して

竹芝埠頭のある海側に面したスキップテラスには、カウンター席やミーティングテーブルが設けられており、水と緑を感じながら働く新しいワークスタイルが提案されています。150種類以上の植栽により多彩な緑の空間が演出されており、オフィスワーカーが気分転換できるスペースとして機能することを意図した緑化がなされています。

さらに、水田や菜園、ハーブガーデンなど、緑と触れ合える空間を設けて環境教育や地域交流を行うことで、都市における生物多様性についての情報発信・活動の場ともなっています。

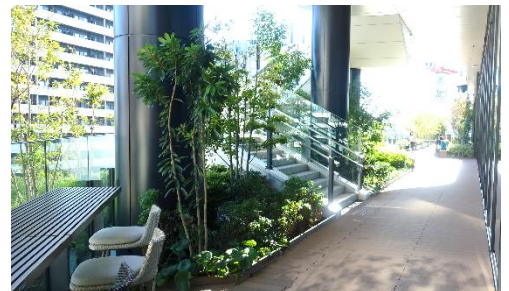
都心にありながらも水と緑を感じながら働く新しいワークスタイルを提案する、これからのオフィス空間における緑化の参考となる事例です。

諸元

敷地面積	: 3,434㎡
建築面積	: 1,954㎡
緑化面積 (屋上)	: 600㎡
緑化面積 (壁面)	: 331㎡
階数	: 地上39階
完成時期	: 2020年



階段状に設けられたオフィスタワーのスキップテラス



屋内外が一体となった空間



オフィスタワー3階の「グリーンプラザ」。地上部と変わらないボリュームの植栽がなされている。

駅ビルにおいて、緑化を商業施設とオフィス両方の魅力向上に繋げた事例

JR横浜タワー（神奈川県横浜市）

駅ビル屋上に創出された多様な緑化空間

JR横浜タワーは、JR横浜駅西口に直結する複合施設で、商業施設とオフィスで構成されています。

12階までは商業施設が、12階より上のフロアにはオフィスが入居しています。3階から5階の屋外には半屋外の回遊デッキ、6階には屋外広場、12階には屋上庭園「うみそらデッキ」が設けられ、これらが緑化空間となっています。

眺望、憩い、オフィス空間延長の機能を集約

商業施設とオフィスの結節点である12階の屋上庭園には、サルスベリ、イロハモミジ、カラーリーフ、オーナメンタルグラスなどが植栽されており、植物の彩りを通年で楽しむことができます。

この庭園は、商業施設とオフィスの両方の利用者に開かれたパブリックスペースとなっており、ベンチ、テーブル、カウンターなどが数多く設置されています。

商業施設利用者にとっては眺望も楽しめる休憩場所となり、オフィスワーカーにとってはオフィス空間の延長としてミーティングやデスクワークの場となるなど、シーンに合わせた様々な利用ができる、これからの複合施設の緑化モデルの一つとなる事例です。



12階の屋上庭園「うみそらデッキ」全景。眼下には駅を発着する鉄道や横浜港を眺められる、屋上ならではの開放感のある見晴らしの良さも特徴のひとつ。



6Fの屋上広場「NewMan Garden」



「うみそらデッキ」に設置された、「YOKOHAMA」の文字の大型のオブジェ

諸元

敷地面積	: 8,687㎡
建築面積	: 7,488㎡
緑化面積(屋上)	: 1,045㎡
階数	: 地上26階
完成時期	: 2020年

オフィスビルの低層部を、周辺の街並みに配慮しながら大規模に緑化した事例



地上から見た低層部の屋上緑化および壁面緑化。手前は港区立西桜公園として整備されている。



虎ノ門ヒルズ ビジネスタワーの外観 低層部の庇を重点的に緑化

虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー（東京都港区）

都心部の超高層ビルの緑化

虎ノ門ヒルズ ビジネスタワーは、大規模オフィスと商業施設などからなる超高層複合タワーです。1階にはバスターミナルが設置され、東京メトロ虎ノ門ヒルズ駅や虎ノ門駅とも直結し、交通の結節点としての機能も有しています。

庇(ひさし)が低い階に向けて張り出すデザインになっており、2階から8階まで、タワーの全方位の庇がつる植物や中低木により緑化されています。これらのフロアでは、緑を間近に眺めながら仕事をしたり、飲食店で食事を取ったりすることができます。

エリアを繋ぐ緑の連続化

この建物の低層部の緑化は、隣接する幹線道路上の人工地盤の緑化や愛宕山の緑を含めて、周辺エリアを緑で繋ぐ機能も期待されている緑化空間となっています。

諸元

敷地面積	: 10,065㎡
建築面積	: 8,465㎡
緑化面積(屋上)	: 2,799㎡
緑化面積(壁面)	: 2,540㎡
階数	: 地上36階
完成時期	: 2020年

※諸元の緑化面積は実際の施工面積を合計した数値です。行政への緑化申請上の数値とは異なります。